

厚生労働科学研究費補助金  
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)  
分担研究報告書

Value-based medicine の推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究

研究分担者 林 知里 兵庫県立大学地域ケア開発研究所 教授  
猪原 匡史 国立循環器病研究センター脳神経内科 部長  
泉 知里 国立循環器病研究センター心臓血管内科 部長  
研究協力者 福間 一樹 国立循環器病研究センター脳神経内科 医師  
北井 豪 国立循環器病研究センター心不全科 医長  
西田 知美 国立循環器病研究センター 副看護部長

研究要旨

ケアマネジャー、介護福祉士、ホームヘルパー等の資格をもつ 2000 名のアンケートモニターを対象に、医療と介護の連携体制の現状についての WEB アンケート調査を実施した。【看護】、【介護】、【リハビリ】、【主治医への相談】の潜在変数を定義し、脳卒中/心不全モデルで共分散構造分析を用いて分析した。潜在変数間の相関関係は、【介護】と【リハビリ】が最も高い値を示し(0.81~0.95)、【主治医への相談】は、どの潜在変数とも相関が低かった(-0.35~0.04)。【主治医への相談】から各観測変数への因果係数は、ケアマネジャーのみ有意ではなかった。本研究により、介護サービスの提供と主治医への相談が一体的に実施されていない現状が示唆された。特に、ケアマネジャーと主治医の相談体制の構築が今後の課題として考えられた。ケアマネジャーと主治医の相談体制、連携体制を強化するシステムが必要である。

A. 研究目的

脳卒中や心不全患者を取り巻く医療介護の連携体制の現状を把握し、循環器病の疾患管理システムの構築に寄与する知見を得る。

B. 研究方法

2022 年 2 月、楽天インサイト株式会社が保有するアンケートモニターの中から、研究者が指定した選定基準を満たす者にのみ WEB アンケート調査を依頼した。研究対象となったのは、ケアマネジャー、介護福祉士、ホームヘルパ

ーなどの資格をもつ 2000 名のモニターである。

分析には、共分散構造分析を用いた。脳卒中/心不全モデルを作成し、ケアマネジャー、介護福祉士、ホームヘルパーの3職種で分析を行った。潜在変数は、主治医に相談したいこと(内服薬、症状、血圧、体重の変動時等の対応、緊急時対応、塩分制限、水分摂取制限、運動、入浴、受診時期、家族等の環境から潜在変数【主治医への相談】を定義した。さらに、訪問看護(服薬指導、食事管理、生活指導、入浴介助、血圧管理)から潜在変数【看護】を、

訪問入浴、ショートステイ、身体介護、生活援助、通所介護から潜在変数【介護】を、訪問リハビリ、通所リハビリ、訪問看護のリハビリから潜在変数【リハビリ】を定義した。尚、各潜在変数に対して、1つの観測変数を1で固定した。潜在変数【主治医への相談】-【看護】、【主治医への相談】-【リハビリ】、【主治医への相談】-【介護】、【看護】-【介護】、【介護】-【リハビリ】、【看護】-【リハビリ】間に相関関係を仮定した。(倫理面への配慮)個人情報削除した匿名データの提供を受けて分析した。

#### C. 研究結果

モデルの適合度を示す指標は、CFI が 0.821～0.903、RMSEA が 0.062～0.097 であった。潜在変数間の相関関係は、脳卒中/心不全モデルで、3職種とも【介護】と【リハビリ】の相関関係が最も高い値を示し(0.81～0.95)、次いで、【看護】と【介護】、【看護】と【リハビリ】が 0.68～0.82、【主治医への相談】との相関関係は、どの潜在変数も低い値を示した(-0.35～0.04)。また、【主治医への相談】から各観測変数への因果係数は、ケアマネジャーのみ有意ではなかった。

#### D. 考察

介護サービスの提供と主治医への相談が一体的に実施されていない現状が示唆された。特に、ケアマネジャーと主治医への相談体制の構築が今後の課題として考えられた。

#### E. 結論

ケアマネジャーと主治医の相談体制、連携体制を強化するシステムが必要である。

#### F. 健康危険情報

(総括研究報告書にまとめて記入)

#### G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし